

体験グローバル 「企業訪問（実地調査）」のアンケート結果

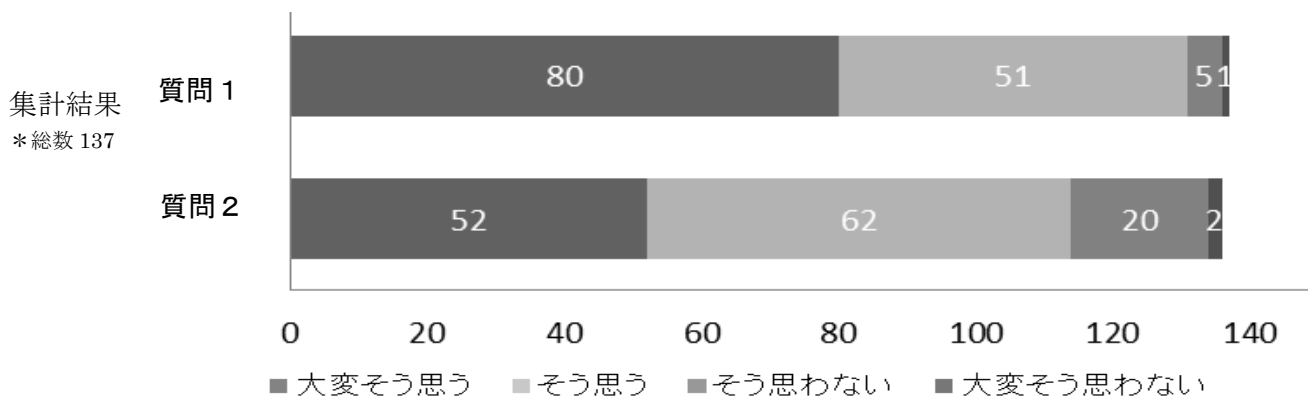
2015年8月25日に4年生を対象に、「グローバル社会での企業活動や地元産業についての研究を行う」ことを目的として、ホーコス株式会社（本社・本社工場）、天野実業株式会社（R&Dセンター）、株式会社エフピコ（福山リサイクル工場）、ヒロボー株式会社（ライブファクトリー）、鞆の浦（対潮楼などの歴史遺産、地元産業）の5つに分かれて実地調査を行いました。

それぞれの訪問先では「技」「特許」「食」「環境」をテーマとして、企業の方からやガイドさんから話をしていただき、それぞれの視点から企業について、地域について考察を深めることができました。

実地調査に参加した生徒に対して次のアンケートを行いました。

質問項目

1. 今回の企業訪問(実地調査)は興味・関心をもつことができましたか
2. "今回の企業訪問(実地調査)は新しい考え方や視点が学べるものでしたか



以下は、それぞれの企業訪問（実地調査）の活動報告と生徒のレポートを集約したのものになります。

場 所：ホーコス株式会社 本社・本社工場（広島県福山市草戸町 2-24-20）

参加者：生徒 38 名，引率教員 2 名

実施内容

ホーコス株式会社での企業訪問では、初めに会社についての説明を受けました。会社紹介では、映像やスライドを利用して工作機械、建築設備機器、環境改善機器の3つの部門を中心に話をしていただきました。ホーコス株式会社の特許である「i MQLの技術」についても、従来の加工方法と比較してわかりやすく説明していただきました。



i M Q Lの技術は、切削加工における切削油剤の使用量を限りなくゼロに近づけ、環境・生産性を考慮したものであり、画期的なアイデアであるということを知ることができました。



その後、ヘルメットと説明の音声聞き取るためのイヤホンを着用し、4つのグループに分かれて工場見学を行いました。案内担当の方がそれぞれのグループに付いてくださり、トランシーバーを用いた説明で、工場内で機械の音が響く中でもとても聞き取りやすく、生徒も頷きながら理解を深めている様子でした。上記に挙げたi M Q Lの技術を用いた切削加工の様子も実際に見ることができ、「正確性・操縦性・安全性」を考慮した

技術に、生徒も夢中で観察していました。

最後の質疑応答では、生徒から特許に関する質問がありました。以前学習した体験グローバルでの内容を質問にも生かしており、企業訪問の意義を理解している印象でした。

生徒たちはこの訪問を通して、今後の活動に繋がる多くのことを学ぶことができました。



「課題レポート」の生徒の記述より

○「機械」を作っている現場は初めてでした。以前JFEの見学に行ったことがありますが、それ以上の感動がありました。それは設計から製造、点検まですべてを見ることができたからだと思います。今まで未知の世界であったので刺激が多かったです。また、どのようにしてアイデアを出すのかなどの「開発」に関することも学べたので勉強になりました。大学は工学部を目指しているのでより一層勉強へのモチベーションが上がるきっかけになる企業訪問でした。

○機械や作業場を実際に見て学んだことは、精巧な機械をたくさん作るには長い年月がかかること、また会社が成功していくには信頼を得てつながりを広げていくことです。つながりがつくれなければ利益は上げられないし、信頼がなければリピーターにもつながりません。それらを得ていくことで注文も増え、利益につながり、その利益が更なる技術革新になって会社の発展につながっていくのだと思いました。

○今回の企業訪問で学んだことは2つあります。1つは、ホーコスという会社が日本の様々な企業を支えているということです。ホーコスでは工作機械や部品などたくさんのものが生産され

ていて、それが日産・トヨタ・ホンダなどの大手自動車企業を支えています。さらにホーコス
は海外にも事業を展開し世界規模で活躍されていてすごいと思いました。2 つ目はみんなで作
業を分担して1 つのものを作っているということです。1 つのものに多くの人が携わっている
ことが今回の訪問では一番印象に残っています。連携や協力の大切さを学びました。

○ホーコスの方からの話を聞いて、「受験のためではなく、社会に出てからためになる知識や
考え方を身につけられるような勉強をしていきたい」と思いました。また、広大附属福山出身
の方が多く勤められていることも知り、将来ホーコスのように地元の企業に就職するのもいい
のかもしれないと思いました。

○今回の企業訪問を通して、自分の夢をもち、立ち向かうこと、夢をどんどん増やして挑み続け
ることの大切さを学びました。僕はこれまで夢を追いかけたことのない生活を送ってきました。
だから、何でもいいからまずは夢をもち、それに立ち向かっていきたい。そうすることで自分
の目の前にはどんどん夢が広がってくると思いました。

○1 つの商品が完成するまでの工程を見させていただいて、ホーコスという企業が新製品の開発
ができるのは、企業努力や新しい特許技術を使った技術革新を進めた結果であり、それによっ
てさまざまなニーズに応えられるようになったということが実感できました。工程を見る中で、
1 つの製品を作ることの難しさもわかりました。1 つの機械を作れるようになるのに技術開発
だけで5年かかるということに驚きました。普段使っているものもこうやって作られていると
考えると大切にしようと思いました。

○改めて、時代やお客さんのニーズに合わせた商品を作ることや、アジア・世界へと進出してグ
ローバル社会に乗り遅れないようにすることが大切だと思いました。また、ホーコスは1 つの
商品・分野にこだわらず、自動車の部品を作る機械や環境分野、建設分野など様々な分野の商
品を作っています。それによって安定した利益につなげています。ホーコスの方の説明を聞いて
感じてしたのは、社員全員が自分の会社の技術に自信をもち、仕事に誇りをもっているとい
うことです。それは高い技術と長い歴史があるからだと思います。

○様々なアイデアを生み出し、新製品を開発することが大切だと思いました。普段生産している
製品だけを販売していても、ずっと利益は期待できないだろうし、性能がさらに高まった製品
を新たに開発することで、海外からの評価も得ることができ、必要とされる企業になれるのだ
と思います。

○高い技術力をもとにニーズに合わせた展開をホーコス社はしていることが分かった。ただ、技
術だけを知っていても特許や世の中のことを知っていなければ意味がないということも学ぶこ
とができた。ホーコス社がこれからどんな分野が鍵となっていくと考えているか知りたくなっ

た。福山にある他のリーディングカンパニーの歴史について知ることで共通点が見えてきたり、どのように企業が生き残り、活躍してきたかを探りたいと思いました。

○ホーコスでは、世界に誇れる技術力があるだけでなく、環境に優しいものづくりをしていることに驚かされました。例えば発生した鉄くずを集めて再利用する。排気をきれいにしてから排出するなどです。環境問題が声高に叫ばれている今日、利益に直結するどころか、支出になりかねないことでも実施することで、それが後々企業のイメージに反映され企業にとって利益になることが実際に見て感じることができました。

○福山市の発展には地元企業の発展が欠かせないと思った。だから、行政が地元の企業にもっと協力してもいいと思った。ホーコスも世界に誇れる技術があるし生産力もあります。そういった企業を市も支援していくことで企業も発展するし、それによって雇用が生まれ市にとっても発展していくと思いました。

場 所：天野実業株式会社 第二工場（岡山県浅口郡里庄町里見 4215 番地）

参加者：生徒 36 名，引率教員 2 名

実施内容

天野実業株式会社里庄第二工場での企業訪問では、初めに天野実業を紹介するDVDを視聴し、天野実業がもつ8つの食品加工技術について説明を受けました。

その後、参加生徒を二つのグループ分け、フリーズドライ技術に関する説明と、工業見学をそれぞれ行いました。

フリーズドライ技術の説明では、実際の商品であるフリーズドライの味噌汁もいただきながら、フリーズドライ技術の歴史から解説をいただきました。特に、技術自体の原理の説明では、生徒が知っている化学や物理の知識を用いたり、実験の動画も使ったりして生徒にもわかりやすく「フリーズドライ（凍結乾燥）」の原理を説明していただきました。そして、そのフリーズドライ技術を用いて天野実業が即席麺の具材の開発・提供に大きく貢献してきたことや、より良い製品・より安全な製品をつくるために日々、研究開発を続けていることなども説明していただきました。



工場見学では、フリーズドライの味噌汁がどのような工程を経て商品になるのかを、実際の工場を見学しながら説明していただきました。その説明の中では、食品を提供する企業として、徹底した品質や衛生管理をしていること、より早くお客に提供するために努力していることなどを説明してい



いただきました。

最後の質疑応答では、様々なことに好奇心をもって取り組んできたことを「花のフリーズドライにも挑戦したことがある」ということを例に挙げながら話してくださいました。また、「高い技術力をもっている」と自負しているけれど、その技術力を常に高めたり、発展させたいという意識をもって研究を進めていかないと、トップ企業ではいられなくなってしまう」という話には、生徒も真剣に耳を傾けていました。



「課題レポート」の生徒の記述より

○天野実業がフリーズドライ技術で特許を取得しているのは知っていたけれど、その技術だけでなく、カラメルや調味料など他の分野の製品も製造・販売していることに驚いた。最後の質疑応答の時に見た小さなバラのフリーズドライがすごくきれいで、プリザーブドフラワーとは違った感じがすごく分かりました。フリーズドライはお湯を注ぐだけですぐにできて、長期保存も可能なので、災害時の非常食にすることができます。白米のフリーズドライを過去に諦めたことがあったということでしたが、ぜひまた挑戦して今度こそ成功してほしいと思います。日本一・世界一といわれる技術を武器に新たな商品をつくってほしいです。

○質疑応答の時間に花のフリーズドライ化の話がありました。見せてもらった試作品はとてもきれいだったので「販売すればいいのに…」と思ったけれど、フリーズドライの安全性を保障するために、あえて販売しないということでした。「安全で質の良いフリーズドライを保障する」という軸からぶれない所が本当にすごいと思いました。『「良い」ではなく「最良」を選択する』ことを学ぶことができました。

○天野実業を見学させていただいて、改めて分かったことは常に技術革新を続けておられるということです。現在「日本で一番、世界で一番だ」とおっしゃられていましたが、それでもなお「よりよくなるように」と研究されていると知りました。フリーズドライの技術でみそ汁だけでなく他にも様々なものへの挑戦を続けられていました。また、積極的に商品を広めようと活動していたことも分かりました。例えば、自衛隊の食糧にと話をしに行かれたこともあるそうです。天野実業の工場には見学専用の通路がありました。工場を多くの人に見学してもらうということを通して、知ってもらえるようにしているのだと思いました。グローバルな企業になるには常に技術革新について考え、積極的に日本全国、世界に向けて活動し、そして地域の人達にももっと知ってもらえるように動くことが必要なんだと感じました。

○天野実業を見学して、フリーズドライのすごさとそれに関わる人たちの研究への熱意を感じました。私はアマノフーズのみそ汁を飲んだことがあり、好きです。でも、その裏には研究して

いる人の努力と技術がありました。今回、地域の企業をすごく身近なものに感じることができました。

○天野実業は「フリーズドライの製品をつくる会社」とわかっていた。でも、「乾燥」と一言で言ってもいろんな種類があって、ニーズに合わせて使う技術を変えているということに驚いた。

○天野実業はフリーズドライや調味料を粉末にする技術など、僕たちの生活をより便利にする研究・製品開発を日々進めている。この姿勢が大切だと思った。お客のために持てる知識を注いで尽力しようとする気持ちの大切さも分かりました。今回の見学で「お客様のニーズに応える」という言葉を何度も聞きました。会社というものはそういう気持ちでできていると気付かされました。

○フリーズドライ技術は様々なことに応用できると思いました。そして、いろいろな人の努力が積み重なって、今の天野実業があるということも分かりました。原材料にこだわり、温度・湿度にこだわり、味にこだわり…様々なこだわりをもっていることも知りました。業界ではトップシェアを誇っているけれど、新しい製品の開発をすることでまだまだ会社の発展を続けようと努力していることに感動しました。私はこれまでの天野実業の歩みをさらに深く調べることで企業を努力というものを知りたいと思いました。フリーズドライの技術についてもとても興味がわきました。

○私たちがよく目にするフリーズドライの食品は「水の三態」を利用して出来ていることに驚きました。実際に昇華の映像を見ることで食品にどのような変化があるのかとても分かりやすかったです。またフリーズドライの技術を食品以外にも役立てようとしていることに「すごい」と思いました。R&D センターで様々な技術を研究・開発していて、特許を取得することでいろいろな面で活躍することができるので、日本にとっても利益になることだと思いました。とても便利で役立つフリーズドライですが、コストがかかることが課題だと言われていました。もっと低コストを実現できれば、難民や自然災害の被災者への人達への食糧支援にもつなげられると思うので、すごく可能性のある技術だと思いました。

○天野実業を訪問して、その高い技術力とイノベーションに驚いた。今ある天野実業の商品は、企業の科学技術や製造技術の賜物であり、業界トップのシェアを誇っている。細部にまでこだわりぬいたおいしさと、徹底した安全・品質管理がその地位を築き、支えているのだと思いました。しかし、天野実業は味噌汁だけでなく、他の料理の商品化や、今ある商品の改善に日々取り組んでいる。「お客様に満足してもらえるように」「時代にニーズに合うように」努力し続けていることが、企業を支えているのだと思いました。

〇フリーズドライ以外の“即席もの”は手軽なことを引き替えに、味や栄養を手放してしまいがちで、あまり健康にはよくないイメージがある。一方で、フリーズドライ技術は手軽ではあるけれど、おいしくて栄養素もほとんど逃すことなく商品にすることができる。それに加えて、長期保存ができ保存料も不要で安全面も確保されている。天野実業は、フリーズドライの独自の技術で消費者に喜ばれるものを作っている。私はこのことが企業にとって大切なことではないかと思いました。また、その技術で心を癒そうという研究開発も進められていると聞きました。これからもたくさんの研究から新しい技術が生まれ、消費者がもっと安心して食事を楽しめるようになればいいと思う。

場 所：株式会社エフピコ 福山リサイクル工場（広島県福山市箕沖町127-2）

参加者：生徒35名、引率教員2名

実施内容

株式会社エフピコ福山リサイクル工場での企業訪問は、環境対策室3R推進マスターの松尾和則氏からの説明を受け、リサイクル工場を見学し、最後に質疑応答という流れでおこなわれました。

松尾氏からの説明は、まず会社の概要、商品開発の歴史、リサイクル事業の推進、障がい者雇用などをお話いただきました。

商品開発の歴史の説明では、時代のニーズに応じて様々な商品が開発されてきたことを知りました。果物の汁が漏れない透明の容器、弁当の仕切りが変えられる容器などの実物を紹介していただきました。次のリサイクル事業の推進の説明では、そのためのさまざまな工夫や努力を教えてくださいました。例えば、商品を配送したトラックの帰路は荷物が空になっていたため、そこでトレーなどを回収していること。トレーをきれいな状態で回収するために、どんな所にも出向いて講演をおこなっていること。リサイクルはきれいごとだけではできない現状と、それを打破するための方策を知りました。



工場見学では、透明容器のリサイクル工程とトレーのリサイクル工程を見せていただきました。作業のラインには、ドイツなどから輸入した機械が導入されていました。機械ではできない工程は、人間の手による作業によっておこなわれていました。回収されたトレーがきれいな状態でなかったり、色別の回収をお願いしているのに異なった色の容器が出されていたり、回収量が足りず作業ラインが行列稼働していなかったり、多くの課題があるという説明を受けました。また、

福山のリサイクル工場で働く多くの人が重度の障がいをもつ人たちであるというお話をいただきました。エフピコは、障がいをもつ人たちの雇用を積極的に進めており、健常者と同じように作業ができるように訓練し、生活に困らない給料を支払っており、このような会社は日本でもまだまだ少ないというお話をいただきました。

講義室に戻り、最後に質疑応答の時間を設けていただきました。生徒から「海外への進出は考えていないのですか」との質問があり、松尾氏からは「まず国内で覇権を握ること、そのためには40%以上のシェアが必要で、まだそこに達していない。また、外国に進出する際には、その国の宗教や文化などの違いにより、日本と同じようにはいかないで、慎重に進める必要がある」とのお答えをいただきました。

企業における“本音”の話がたくさん盛り込んでいただき、生徒たちにとって有意義な時間になりました。

「課題レポート」の生徒の記述より

○エフピコさんから聞いたお話は「体験グローバル」をこれから引き続き受けていく上でも、とても参考になるものばかりでした。特に障がいをもった方々を積極的に雇用しているというのは大変素晴らしいことだと思いました。障がいをもっていようと同じ人だから平等に雇用するというのは当たり前でなかなか難しいことだと思います。作っているものもトレーなど環境に優しいもので、自然にも人にもよい企業だと感じました。このような企業が他にもあるのか興味がわきました。

○リサイクルの根本的な理由は、埋め立て地がないからだそうです。エフピコは海外の不買運動をいち早く察知し、国内のどの同業者よりも対策を練り、改良することができた。一方、ローカルな視点から見ると、①エフピコは従業員を雇う時には、それぞれの工場の地域で雇い、その中には重度の障がい者も含まれている。②エフピコはリサイクル技術は十分だが、回収量が不足していると聞きました。そのため、地域の至る所に赴いて声をかけ、きれいなトレーが返ってくるように努力している。以上のように、海外の情報と、独自の開発・技術力に加えて地域との連携や関わりをもつことが、会社を発展させると同時に、環境を守るために必要なことだと思いました。

○リサイクルがとても大変だということがよく分かりました。これまでは、リサイクルが簡単に企業がしてもあまり「すごい」とは思わなかったけれど、システムを作ることがとても大変だということも分かった。また、リサイクル事業と障がい者雇用を同時に行うというところで、リサイクルだけではない社会貢献をしているところにすごいと思いました。法律の整備によって、新しいことをすることの大変さが変わるということもよく分かったし、法律の整備をする前後で始めた事業で売りに上げに大きく差があることから、法整備に対応していく必要性も感じました。特許の話や業界の覇権争いの話も聞いて大変勉強になりました。

○エフピコという企業の存在は知っていたけれど、工場を見学してどのような仕事をどのような方針で進めているかを聞いて、とても興味深かったです。また、リサイクル工場では障がいのある人も雇われていて、そういう面でも社会貢献が進んでいると思いました。また、特許には開発を自社だけのものにして利益を得るものと、他の企業が特許を取って自分のところに特許技術売り込みに来ないようにする防衛の特許があることが興味深かったです。

○エフピコの方はペットボトルやトレーの回収をして、リサイクルされていたのは知っていたが、それが定着するまでにいろいろな努力があったことを初めて知りました。「洗ってから出す」ということを様々なところに出向いて行って協力を求めているというのが地道な努力だと思いました。また、トレーは単価がとても安いので地産地消でないとも利益が出ないということで、全国に一気に工場を展開したということに驚きました。大きなことをすると決めたら行動する決断力の大切さを学ぶことができました。

○リサイクルは社会全体の課題だけど、その方法についても会社どうして競争し合っていることを知りました。その競争がリサイクル技術を向上させているんだと思いました。また、エフピコはリサイクルに関する法律がない時から基準がないまま地道に取り組んできたから現在リサイクル業界で1位になっているんだと思いました。そんな風に誰もしていない分野に注目して果敢に挑戦することが成功のためには必要なんだと思いました。そして、成功した技術で特許を取るのには、技術を売るためではなく、他社に奪われたり先に特許を取られて売り込まれないようにするためでもあることを知って驚きました。

○エフピコがトレーを作っている会社だということしか知りませんでした。訪問してみてこれまでに様々なものを作っていることが分かりました。それはお客のニーズと日本の文化によって変化してきたことが分かりました。日本の食文化の変化に対応してどんどん会社を成長させてきたことがすごいと思いました。また、アメリカのマクドナルド社が発泡スチロール容器をやめて、紙容器にしたとき、エフピコは日本にその情報が伝わる前に行動し、トレーのリサイクルに成功させ逆風をもろともしなかったそうです。だから、まず早めに大きな一歩を踏み出すことの大切さを学びました。エフピコは加えて福祉事業を積極的に行っており、地域貢献も大切なことが分かりました。

○企業訪問を通して、エフピコの経営にはどれだけ先を見据えているかがすごく伝わってきました。エフピコは技術はかなり高いものを持っているのに、海外進出はまだしていません。それは、まだ企業の国内規模が目標に達成していないからだそうです。海外で成功している企業と比べると国内の規模はまだ劣るそうです。技術は素晴らしいものを持っているのに、目標にそって物事を進める、その先の先を見据える力にすごいと思いました。

○今回の企業訪問で「当たり前」なことをしない重要さを考えさせられました。どのようにお客さんのニーズに伝えていくか、他の企業とどうやって差をつけていくか。説明をして下さった方は、常にエフピコはどの部分が他の企業と違うかを伝えてくださいました。「当たり前」なこ

とをしないのは正しいか間違っているかも分からないからすごく勇気がいる決断です。だけど、それくらいことをしないと生き残っていくのは難しいのだと思いました。

○常に変化し続ける世界で生き残るには発想と思い切り、根性が大切なのだと強く感じた。また、国、その他の公共団体の作る「規定・基準」が「ある」か「ない」かが大きく業界の市場に影響していることに驚きました。「企業は社会貢献すべき」という理念は素晴らしいと思いました。

○エフピコは様々なトレーを開発してきて、現在エコトレーが主力商品になっているそうです。昔はトレーに関する法律がなくゴールが見えない中での開発だったそうです。それでもエフピコは挑戦し続け、同業他社に勝つことができました。私は規則がある方がいろいろな開発がしやすいかと思っていましたが、この話を聞いて規則がある方が開発がしやすいことにとても驚きました。

場 所： 鞆の浦（対潮楼など歴史遺産や地元産業）

参加者： 生徒 34 名， 引率教員 3 名

実施内容

鞆の浦の現地調査では、対潮楼、魚屋萬蔵宅、常夜燈、太田家、岡本亀太郎本店、法宣寺を訪問し、ガイドさんの説明を聞きながら、鞆の浦について理解を深めた。

対潮楼

瀬戸内海の美しさを感じることでできる場所である。

対潮楼の説明に加えて、対潮楼から見える島や山の名前、弁天島と仙酔島の歴史、朝鮮通信使の歴史、刀を拾った若者の伝説などについて、ガイドさんから説明をいただいた。鞆の浦をめぐる歴史と伝説について、理解を深めることができた。



常夜燈

鞆の浦のシンボルともいえるものである。雁木とあわせて、港としての鞆の浦について説明をいただいた。すぐ側には、最近のTVドラマで利用された建物や、映画やTVの撮影で多用される通りもあり、「TVで見たのはこれだったんだ」と、生徒は興味深く眺めていた。



太田家・岡本亀太郎本店

鞆の浦の名産である保命酒に関係する場所である。保命酒の歴史、作り方、味について説明をいただいた。この地が、日本の薬酒造りの最初期の場所であり、現在造られている薬酒はこの地で職人をしてきた人が、

広めたものである。保命酒は他の薬酒に比べて、用いられる薬草が多く、滋養と味に富む薬酒である。鞆の浦の食の名産について理解を深めることができた。

法宣寺

鞆の浦にある古寺である。

鞆の浦には多くのお寺がある。法宣寺もその一つである。法宣寺の歴史、大きな松について説明いただいた。道路の作り方や建物の建て方などとあわせて、歴史ある街並みについて理解を深めることができた。



ガイドさんの丁寧な説明を聞き、地元福山の観光地鞆の浦を、観光地としてだけではなく、歴史ある地としてもとらえる視座を生徒たちは身につけることができた。また、その地の名産品は、地理的・歴史的諸条件の中で育てられることを知ることができた。

「課題レポート」の生徒の記述より

○昔の偉業を語り継いでいき、伝統のあるものを最新の技術に安易に流されず後世に残していくことも大切だと思った。「食」というテーマをもって行きましたが、何か一つだけ有名なものを売りにするのではなく、各食品を個々に評価することで、それぞれにスポットライトが等しく当たるように工夫しているのかなと思った。個人的にはこんなに身近なところが幾時代か前には日本の中心だったことに驚きました。

○鞆は昔すごく栄えていたから、多くの文化が残っていることがよく分かりました。雨のせいできれいな景色が見られなかったのが残念です。でも、鞆にはたくさんの「日本一」があって、素晴らしい景色や伝統食品があることが知れて素晴らしいところなんだということをしっかり学ぶことができました。「食」という視点からもっと鞆を掘り下げてみたい。

○対潮楼へ行って実際に窓の前に座って話を聞きました。話の中で一番心に残ったのが、「余計なものがいっぱいできてしまった…」と、ガイドさんがぼつりと言われたことです。鞆の浦は道路を作るか、景観を守るかで問題があったことは知っていましたが、住民のリアルな声を聞いた気がします。「古い町並み」「昔ながらの店」これらがこれからも続いてほしいと思いました。

○ボランティアの方のすがたを見て、昔栄えた町を、地元の年配の方々がこれからの世代にも残していきたいという姿勢が生き生きとしていて、鞆の浦のためにも地元の人のためにもいい活動だと思いました。また、映画やドラマも鞆の浦を発信するための貴重な助けになるし、その舞台に選ばれるということは鞆の浦の良さを知っている人がいるということだろうから、これがどんどんつながっていくと、活性化につながっていくと思いました。

○「鞆の浦」は、名前は聞いていたけれど、近いという理由でちゃんと行ったことがありませんでした。今回実際に行ってみて、福山市といっても景色は全く違って自然豊かなところだった。そこに伝わる伝説から場所の名前がついていたり、国にも認められた美しい景色があったりすることも初めて知りました。これだけ自然の美しいところだからこそ、おいしい食べ物がたくさんあり、それが人々に愛され続ける理由になっているんだと思った。

○今回の訪問で、歴史がとても深く、鞆の浦に住んでいる人達は鞆の浦のことを誇りに思っていることがよく分かりました。350年を超える保命酒作りがあったり、「流星ワゴン」の舞台になっていたことにも驚きました。酔水島の歴史や、鞆の浦の伝説なども興味深かったので歴史の視点から鞆の浦をもっと掘り下げてみたいと思いました。

○鞆の浦では、新しい家も違和感がないように、わざと古く見えるように作ったり、江戸時代の街並みをほぼそのまましたり、ボランティアの案内・観光センターの設置など鞆の浦をPRするために様々な努力をしていることが訪問を通じて分かりました。これらの努力があって今の鞆の浦があるんだと思いました。

○歴史がものすごく多いと思いました。また、それを残そうとする町の人の思いも感じました。一番印象的だったのが保命酒です。養命酒が保命酒から生まれたものとは思っていなかったのが驚きました。また、お店に行ってみて、お店の歴史を感じさせる看板なども見せていただきました。古くから伝えられる伝統の技を後世に残そうとする、そんな姿勢を感じました。町の人全体で街を愛しているからこそ今の鞆の浦があると思います。瀬戸内から世界へ発信するにはまず、瀬戸内で愛される必要があると思いました。

○今回、鞆の浦に行って実際にガイドの方から話を聞きながら街を歩いてみて分かったのは、町全体が一体となり、食や美しい景観を通して街のPRを進めているということです。保命酒では今では飴なども作り出され、保命酒という名産品を買ってもらうターゲットを広げています。また、鞆の浦の地理的条件が生かされた水産加工品はお土産として売られています。鞆の浦は高齢化が進んでいるとガイドの方がおっしゃっていましたが、知名度を確実に上げています。そして街を支える人が多くいるからきっと大丈夫だと思いました。

○今回の訪問で一番感じたことは、地域の歴史を伝え続けようとする意思を地域の人達から感じたことです。ガイドをしてくださった方はボランティアだったし、台風の中で閉鎖していた対潮楼を私たちのために開けて下さった優しさからも感じました。こういった地域の人に意思のある町はこれからも強いと思いました。

○鞆の浦には昔の街並みが想像以上に多く残っていることに驚きました。道路も400年以上変わっていないことや、自然を建築物の一部にしたような設計を見たいり聞いたりして思ったの

が、この雰囲気ある鞆の浦の街並みをこれからも残して行ってほしいということです。一方で、高齢化が進んでいるということも聞きました。いろいろな問題を解決していかなければいけないけれど、その中で自分たちも何か役に立てることはないかと思いました。

場 所：ヒロボー株式会社 ライブファクトリー（広島県府中市桜が丘三丁目 3-1）

参加者：生徒 34 名，引率教員 2 名

実施内容

ヒロボー株式会社への企業訪問では、府中市桜が丘にあるヒロボーライブファクトリーを訪れました。初めに、会社紹介のDVDを視聴しました。また、実際にその場でラジコンヘリを飛ばしてもらい、室内を自由自在に飛び回る様子を間近で見ることができました。その後、松坂晃太郎社長より会社の沿革や、生き生きとした強い会社を作るために100 kmウォークをはじめ様々なイベントを企画していること、今後の展望などについて話をいただきました。



その後、2つのグループに分かれ、航空機の模型や実際のホビー用ラジコンヘリ、産業用ヘリの展示などを見せていただきました。産業用ヘリは、農家にとって非常に負担の大きな作業である農薬散布を短時間で行うことができるということで、農協を通して多くの農家の方々に利用されているという話も伺いました。また、人命救助のためのレスキューヘリの開発にも長く取り組んでおり、血液や医療物資の運搬を行うラジコンヘリを開発しているとのことでした。他にも、燃料で

はなく電池を動力源とすることで、静穏性に優れ、CO₂を排出しない電動無人ヘリも開発しているという説明もありました。

最後に、何人かの生徒がラジコンヘリを操縦する機会も設けてくださり、生徒たちは苦戦しながらも、操縦を楽しんでいました。

松坂社長の話の中にあつた「夢や志があるから人は育つ。」「挫折があるから学ぶことができる。」「製品を通して人の笑顔を見るのが大好きで、そのために夢を追い続けている」といった言葉がとても印象的でした。生徒たちはこの訪問を通して、多くのことを学ぶことができたようです。



「課題レポート」の生徒の記述より

○最近、ドローンが話題にあがっているけれど、無人のヘリコプターも有用性が高いということが分かった。また、夢をもって経営していくというのも企業を大きくするために大切だと分かった。それは、失敗をしても次にチャレンジできて目標ができるからです。ヒロボーの社長さんのこのような話は素晴らしいと思ったし、このようなビジョンをもっている企業がよりよくなっていくのだと思った。

○1つのものを極めるのもいいけれど、時代に合わせてその時必要とされるものを作ることも生き残るのに重要なんだということが分かりました。ヒロボーの技術を輸血用血液の輸送に活かそうと研究・開発が進んでいることを聞きました。「その時必要とされるものを作る」という言葉を体現されていると思いました。

○ヒロボーの「技術」に対するあくなき探究心がすごいと思いました。その原動力となっているのが「自分の欲望と利益ではなく、誰かの役に立つかどうか」や「そのモノを作った時の、みんなの喜ぶ笑顔が見たい」というところにあることも知ることができました。確かに自分のことだけを考えると怠けてしまったり、諦めたりしてしまったりするけれど、他人のことを考えると頑張れるというのにはすごく共感できました。また、社長がおっしゃられた「夢があるところに人は育つ」という言葉が深く印象に残りました。それは、夢をもつということは困難をもつということでもある。失敗はするけれど、その挫折を通して学ぶこともできる。だから諦めなければいつか夢は叶うし、そこで人は成長できると思います。得意・不得意で夢を決めるのではなく動機や初心を大事にして夢をもってそれを一生懸命追っていける人になりたいと思う。

○今回社長から直接お話を聞くことができました。その中で人に役立つ夢をもつことが一番大事だと思いました。そして、「夢に近づいたら次の夢をもつこと」という言葉も大変興味深かったです。技術的な成長以外にも、人としてレベルアップをはかろうとしていると思いました。「ものを作りたい」「人が喜ぶものを作りたい」という、自分のためだけではできない大きな夢に感動しました。他国や他社に技術を盗まれたり、実用化に至らなかったりする開発も多く大変そうでしたが、自分の将来像の一つのお手本にしたいと思いました。

○ヒロボーさんが社内活動で年に1回100kmウォークをしていることに驚きました。100kmという距離は途中で挫折があるから、その度に目の前に目標をたて乗り越えるようにするそうです。僕のこれからの長い人生の中で、何が起こるか分かりません。先が見えない時にでも、遠くを見ずに目の前のことに集中し一歩ずつ乗り越えられるようになりたいと思いました。

○ヒロボーで学んだのは「夢」についてです。「空を飛びたい」という願いからはじまったヒロボーは、ラジコンヘリコプター作成などを通して夢を叶えました。夢を叶えることによって自分

を伸ばすことができるということを改めて感じました。また、夢を叶えることに意味があるのは、そこで困難を乗り越えたからという言葉も勉強になりました。これからの自分の経験の中で、困難を乗り越える意味をしっかりと考えていきたいです。

○ラジコンヘリ開発では、ヘリのホバリングが最大の課題で、その難しさに多くの会社が諦めヒロボーを含めて世界の数社でしか開発は進められていなかったそうです。その中でヒロボーはあきらめずにその技術を完成させた。やはり、あきらめないということは大切だと思った。それを完成させるまでには何度も挫折しそうになったと思うが、それでも頑張り続けたからこそ、今自分たちの生活で当たり前にならそれらの技術が使われているのだと思う。

○紡績業をしていた会社が、時代に波にも流されずに残っているのは、それぞれのニーズに合わせて事業を展開しているからだと分かりました。また、ラジコンのイメージしかなかったヒロボーで、パッケージなどを作る樹脂成形もしていることを知り驚きました。ほかにも初代の社長の夢であった「自由に空を飛びたい」ということを引き継ぎ、ヘリコプターなどの作成を始めたと聞きました。自分たちの夢を形にするために、研究し試行錯誤したことが素晴らしいと思いました。自分たちの夢を自分たちで追い求めることができる仕事にあこがれました。自分もそんな夢を追う楽しみと期待のあふれることをしていきたいと思いました。

○夢を追い続けることで必ず突き当たる困難を乗り越えることで成長することができる。そして、その姿を見た他の人も自分を信じてついてきてくれる。マイナスな面や失敗してしまったことでも、色々な視点から見つめ直すことで、チャンスとなったり新しい発見につながったりすることが分かった。ただ技術だけでなく、社員内のつながりと業績の関係にも注目しながら企業について考えていきたい。

○ヒロボーの歴史や社会貢献について学ぶことができました。ヒロボーでは当初娯楽のためのラジコンヘリのみを作っていたそうです。しかし、ある医師の助言により輸血用ラジコンヘリの開発をはじめたそうです。その医師は「自社の技術がどのように社会に貢献しているか」を考え直すきっかけとなったとおっしゃっていました。この話を聞いて自分も将来自分の技術をできるだけ広く社会に役立てられるよう考えていきたいと思えるようになりました。

○ヒロボーで学んだことは「夢」が大切であるということでした。印象的だった言葉は「夢は人から与えられるものではない。どんな夢でもいいから、自分の夢を追おう！」です。自分で夢をみつけてこそ意味があり、それを追い続ける努力の過程が大切なのだと思う。その努力によって自分はさらに成長し夢の実現につながっていくと思う。まさに「雑草」のように粘り強く頑張ることが必要であると思いました。